

平成29年6月29日

福岡医療専門学校  
校長 藤瀬 武 殿

学校関係者評価委員会  
委員長 下迫 勇夫

## 学校関係者評価委員会報告

平成29年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

### 記

- 1 学校関係者評価委員会 委員 (五十音順 敬称略)
  - ① 池田 悦子 公益社団法人福岡県看護協会 元理事  
医療法人社団正樹会 佐田整形外科病院 副院長
  - ② 上野 啓介 うえの整骨院 院長 (6期卒業生)
  - ③ 北原 孝子 朝日ホーム有限会社 顧問
  - ④ 木下 健一郎 有限会社ひかり (通所介護ライズ) 代表取締役
  - ⑤ 下迫 勇夫 福岡市立福岡西陵高等学校 元校長
  - ⑥ 馬場 鮎美 福岡東鍼灸整骨院 副院長
  - ⑦ 松山 基光 松山整骨院 院長
  - ⑧ 山中 知愛 医療法人 西福岡病院 放射線科 科長
- 2 学校関係者評価委員会の審議スケジュール
  - (1) 自己点検・自己評価報告書の書面審議 (平成29年4月)
  - (2) 自己点検・自己評価委員による事前説明・ヒアリング (平成29年4月～5月)
  - (3) 平成29年6月10日 (土) 学校関係者評価委員会開催
- 3 学校関係者評価委員会報告  
別紙のとおり

以上

## I 重点目標について

### 1 重点目標 「教育活動・学修成果」について

- 目標に掲げている国家試験全員合格について、柔道整復科、理学療法科は不合格者がおり残念である。しかしながら、全学科をとおして合格率は全国ではトップクラスである。引き続き目標達成に向け学生一人ひとりに対応したきめ細やかな教育指導を期待する。
- 学生時代に壁にぶつかっていない学生は、就職した後に何らかの壁にぶつかった際、困難を避ける傾向にある。学生時代にもう少し実践的な事柄で、壁になるような経験があった方が良いのではないか。学生時代に勉強や実習などで挫折を経験した学生の方が、課題解決能力が高い印象を受ける。

### 2 重点目標 「就職」について

- 就職に関しては、求人倍率が柔道整復科 16.1 倍、鍼灸科 29.5 倍、理学療法科 87.7 倍、診療放射線科 18.1 倍、看護科 230.3 倍と高い数値を指している。しかしながら求人先、求人の種類が変化しており、従来型だけの勤務先ではなく、複合的な分野からの求人が近年増加傾向にある。このように複合的な新しい分野においても活躍できるような人材の育成が専門職大学に求められると考えている。

### 3 重点目標 「職業実践専門課程」について

- 文部科学省が認定する職業実践専門課程を通じた教育の質の保証・向上のため、積極的に医療機関と連携し、その主旨である実践的な教育活動への取り組みが理解できる。引き続き、次の段階である専門職大学の設置に向けて学校全体での取り組みを期待する。

## II 各評価項目について

### 1 教育理念・目的・人材育成像

評価・意見	4段階 評価平均
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 即戦力を備えた医療人を養成する目標設定は良いが、現実には厳しい。学校教育だけに期待するのではなく、就職した後も学ぶことは可能である。</li><li>○ 与えられたことに対してはきちんとこなすことができるが、自分で考えて創造する力が不足している。学校教育の中で、創造力を高めるような取り組みを行ってほしい。</li><li>○ 最近では就職して1日2日で辞める人もいる。それでは社会貢献も何もできない。入学時に描いた想いを卒業するまで持たせ続けて、ビジョンを達成できたかどうかを判断させてはどうか。</li></ul>	3.6

### 2 学校運営

<ul style="list-style-type: none"><li>○ 職業実践専門課程の主旨である、実践的な教育活動に対する積極的な取り組みが理解できる。引き続き、次のステップアップである専門職大学の設置に向けて学校全体での取り組みを期待する。</li><li>○ 理学療法科による専門的な触察法を柔道整復科や鍼灸科とシェアするなど、他校との差別化を図ってはどうか。学科を横断的に繋ぐことによって差別化ができるのではないかと思われる。</li><li>○ 専門職大学の設置によって、公開講座を週に1回でも開いてはどうか。在校生も履修するが、一般の社会人の方も学習に参加できるという開かれた講座があると、さらに地域の活性化に繋がり、地域貢献にも資すると思われる。</li><li>○ 地域貢献の一環として、学校の施設の貸出しを行っている。地域の高齢者による健康体操教室を行った後、噂を聞きつけた保健所からさらに他の高齢者の団体による体操のために教室を貸してほしいとの依頼を受けるなど、徐々に地域包括ケアの役割を果たしている。</li></ul>	3.4
--	-----

### 3 教育活動

<ul style="list-style-type: none"><li>○ 教員による振る舞いが、学生の模範となるような教育をしないと、社会性を含めて学生は育たない。来客者など外部の人間に対して、教員が外部の人間を気遣うような姿勢を示し、範を垂れる又は模範を示すべきである。</li><li>○ 勉強面だけに力を入れるのではなく、そこに実践力をつけるために創造力を働かせるような教育が必要である。自分の力で考えて新しいことを生み出すような教育が少しずつ減ってきているので、与えられた課題しかできない学生が増えているのではないか。</li><li>○ 教員でも社会の流れがわからずに慣れで仕事をしている人がいる。教員も初心に帰るといふ心掛けが必要である。</li><li>○ 社会に出た後は人と向き合う力が必要なので、在学中に成績が優秀な学生に対し、さらに人間力を養うような課程があると良い。</li></ul>	3.4
---	-----

### 4 学修成果

<ul style="list-style-type: none"><li>○ 国家試験合格率は柔道整復師 97.5%、はり師・きゅう師が 100%、理学療法士が 98%、診療放射線技師 100%、看護師 100%であった。柔道整復科で 3 名、理学療法科で 1 名がわずかに点数が不足し、残念ながら国家試験に落ちた者がいるが、すでに来年度に向けて学習に取り組んでいる。</li><li>○ 求人倍率は高い数値を維持している。柔道整復科 16.1 倍、鍼灸科 29.5 倍、理学療法科 87.7 倍、診療放射線科 18.1 倍、看護科 230.3 倍で、就職を希望する学生は、全員が就職できる状況にある。</li><li>○ 国家試験合格率が高い水準にあることは素晴らしいことである。難しいと思われるが、卒業生が社会的評価をどう受けているかを就職先から聞き取り等で把握し、フィードバックすることがより良い教育に繋がると考えられる。</li></ul>	3.4
---	-----

## 5 学生支援

<ul style="list-style-type: none"><li>○ 臨床実習先で、臨床現場の職員やスタッフには何も触れず、実習生のみ対応する教員の姿も見られる。学生共々、卒業後の臨床現場にも手厚くしてほしい。</li><li>○ 学生の格差が大きく感じられる。中学校、高校ときちんと学んでない学生が増え、なんとなく親に言われて入学した学生もいる。その中で担任が一人ひとりに応じて面談し対応している点は、学生教育の基本であり、素晴らしい対応である。</li><li>○ 性格テストを行うのはどうか。テストの結果次第でタイプ別にグループ分けして対応してみてもどうか。</li><li>○ インターンシップ先の医療現場へ聞き取りを行って学生支援へ活かすように取り組んでみるのはどうか。</li></ul>	3.4
---	-----

## 6 教育環境

<ul style="list-style-type: none"><li>○ パソコンなど学生が疑問に思った点等をすぐに調べられる環境は良い。図書室も専門書が多く置かれており自主勉強をするには良い環境だと思われる。</li><li>○ 電子化されたMRIやレントゲンなどの設備が最新で、臨床現場に就職した際には即戦力になると思われる。</li><li>○ 質の高い医療に対する具体的な点をもっとアピールしてもよいのではないか。講師の先生方の経歴など素晴らしい先生方が教育されている。先生方の経歴等をより前面に出すことで学生も安心するのではないだろうか。</li><li>○ 教育機器などの設備として、プロジェクターが全ての教室に常設されているのは良い。時代に沿った教育が可能である。</li></ul>	3.8
--	-----

## 7 学生の募集と受入れ

<ul style="list-style-type: none"><li>○ 入学選考方法については、面接においてもしっかりしていると思われる。近年、入学後すぐに退学するような学生が増えている中で、面接の際にしっかりと見極めが行えている印象を受ける。</li></ul>	3.5
--	-----

## 8 財 務

特になし	3.8
------	-----

## 9 法令等の遵守

○ 自己点検、自己評価をホームページに記載していることで、より信頼性を得ることができている。また、第三者評価を受け、合格したことは名誉なことであり、大々的にアピールしてもよいのではないか。	3.9
--	-----

## 10 社会貢献・地域貢献

○ 地域包括という面で、地域の体操教室や運動に関して施設を開放していることにより地域に貢献できている。また、保健所や福岡市からの健康と運動に関しての教室貸し出しや、運動指導に関して専門の教員による指導等で地域に貢献できている。 ○ 学生が来ることは書店、飲食店を含め、街の雰囲気活性化につながるため、専門職大学の設置は周辺地域も期待している。公開講座を行いさらに地域に対して開放していくことを期待する。	3.1
--	-----

## 11 まとめ

各評価項目の評価は、平均3.5（4段階評価）であり、概ね高水準が維持されている。また、教育の質の向上のため、職業実践専門課程や新たな専門職大学の設置に向けて学校全体が一丸となり、積極的に取り組んでいることがよく理解できた。今後も医療機関との連携や教職員の質向上に対し、積極的に取り組んで欲しい。

しかし、学生や教職員の来客者に対する接遇向上を期待する意見が出ている。今後は、挨拶運動等を実施し、さらなる人間性の育成についても期待する。